

## 皆様の声をカタチに

横浜市会議員 斉藤伸一

今月8日、横浜市会・本会議において、林市長に対して一般質問を行いました。

## 幼児虐待、撲滅に向けて

ぐために、定期的な乳幼児健康診査(3歳までに3回)の受診に來ていない保護者をデータベース化し、必要に応じて保健師などを派遣することを市長に提案。

最近、信じ難い児童虐待事件が後を絶ちません。私自身、3歳になる娘の父親として、最も愛されるはずの親から虐待を受ける、こんなことが世の中に存在してはならないと強く思います。

その結果、各家庭が抱える育児に対する不安や悩みを早期に解消できる仕組みづくりに向け着手する事になりました。

孤立社会といわれる昨今、まず母親を孤立させないことが重要と考えます。そこで私は、孤立を防

期健診に來ていない子どもは全体の約5%。この子たちの親が支援を必要としているのか等の情報を一刻も早くキヤッチし、的確に関わつていく事が今後、幼児虐待防止への第一歩になるものと思います。

## 斉藤伸一プロフィール



・昭和43年2月4日 横浜市生まれ  
 ・産業能率大学 経営情報学部 卒業  
 ・日立ソフトウェアエンジニアリング 株式会社後、衆議院議員上田いさむ秘書を務める。  
 ・平成19年4月 横浜市議員2期目当選  
 ・横浜市 市民・消防常任委員会 委員長  
 ・環境行動都市特別委員会 委員長  
 ・公明党 横浜市議員団 政務調査会 事務局長  
 ・妻と娘(3歳)の3人暮らし

内水ハザードマップ作成を  
 さらに、この夏も連日、各地で発生した局地的な強い雨(ゲリラ

豪雨)に対処すべく、「より身近で現実的な浸水被害の想定を市民に公表すべき」と指摘。すでに作成されている『外水ハザードマップ(浸水予想区域図)』に加え、『内水ハザードマップ』の作成を提案しました。皆さんもニュース映像などでご覧になった事もあると思いますが、最近頻繁に発生している洪水は河川等による氾濫(外水氾濫)被害とは異なり、都市部の排水能力を大幅に上回る局地的な強い雨により、地面の下で処理しきれなくなった雨水が地表に溢れ出す『内水氾濫』と呼ばれるタイプが大半です。普段は目にする機会のない地下の状況を把握しなければ、正確な浸水被害の予想はできません。そのため市長もこのマップ作成について、早期に取り組む方針を示しました。

## 中小企業の実態調査、実施へ

私は、日々「現場第一主義」を大切にしています。「困っている」という言葉を聞けば、まずその「現場」へ急行。

最近では、厳しい経済状況に加え、急速な円高の影響が市内の中小企業へも確実に波及しています。先行きの不透明感が強くなる中、私は「市を支える企業の『生の声』を、どの様に市政に活かしていくのか」と市長に質問しました。今月中旬をメドに、市内全ての中小製造業者(約7400社)を対象に、経営課題などに関するアンケートやヒヤリング調査を実施。企業の実態を把握した上で精度・確度の高い支援策を打ち出す事となりました。

これからも、皆様からのご意見を具体的なカタチにすべく、様々な問題に立ち向かい、精一杯力を注いでいきたいと思っ

公明党 横浜市議員団  
 保土ヶ谷区 政務調査事務所  
 代表 斉藤 伸一  
 保土ヶ谷区仏向町196  
 TEL045-348-2237 FAX045-334-1777  
 http://www.shin-shin.com ✉saito@shin-shin.com